

# 加賀検定

## 第5回 加賀ふるさと検定試験問題

上級（全60問）

2017年 12月17日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 近年、加賀市では、伝統的な祭りだけでなく、観光化された祭りも盛んになっている。そのような中で、最も新しい祭りは（ ）である。  
①大聖寺桜祭り ②片山津湯の祭り ③山中こいこい祭り ④山代大田楽
- 2 加賀市域で盛んに作られる伝統料理の一つに（ ）があるが、各家庭によって、作り方や味も個性的である。  
①笹寿司 ②柿の葉寿司 ③巻き寿司 ④押し寿司
- 3 加賀市の片野から黒崎、橋立にかけての橋立台地には海岸地形特有の（ ）が見られる。  
①砂丘 ②海蝕崖 ③活断層 ④防風林
- 4 加賀市の二大河川である大聖寺川の長さは、（ ） kmである。  
① 18.0 ② 28.0 ③ 38.0 ④ 48.0
- 5 江沼三山の一つ（ ）は、加賀市内はもちろんのこと、海上からも目立ち、船の航行の目印とされ、別名舟見山ともいわれている。  
①白山 ②富士写ヶ岳 ③鞍掛山 ④刈安山
- 6 加賀市では、国蝶として珍重される（ ）が平成10年頃前までは確認されていたが、それ以降は確認されていない。  
①ギフチョウ ②アオムラサキ ③フジミドリシジミ ④オオムラサキ
- 7 かつては農業や炭焼きで生計を立てていた（ ）・今立・荒谷・杉水の東谷地区4町に、昭和30年頃まではおよそ800人の人々が暮らしていた。  
①真砂 ②四十九院 ③大土 ④片谷
- 8 毎年5月頃、富士写ヶ岳の中腹から山頂にかけての登山道わきには、（ ）がきれいに咲き誇る。  
①山桜 ②シャクナゲ ③ササユリ ④かたくり
- 9 縄文時代早期の（ ）からは、<sup>せんていだえんおしがたもん</sup>尖底楕円押型文土器と呼ばれる県内最古の土器が出土している。  
①保賀遺跡 ②橋立大野山遺跡 ③打越遺跡 ④美岬千崎遺跡

- 10 弥生時代前期末の柴山出村遺跡からは県内最古の弥生土器が発見されているが、この土器は柴山出村式土器と呼ばれ、( ) の影響を強く受けていることが判明した。  
①中国地方 ②関東地方 ③東北地方 ④東海地方
- 11 分校松山古墳群における分校前山支群1号墳からは、大和朝廷が江沼の王に与えたものと考えられる( ) と称する当地方で最も古い銅鏡が発見された。  
①三角縁神獣鏡 ②鋸歯文縁方格規矩四神鏡 ③画文帯神獣鏡 ④内行花文鏡
- 12 5世紀中頃の前方後円墳である狐山古墳の石棺からは、全国に4例しか確認されていない( ) と称する小さな鉄板をつづり合わせた甲冑かっちゅうが発見されている。  
①組合木甲 ②桂甲 ③短甲 ④鉄短冊
- 13 6世紀、朝鮮半島から仏教が伝来すると、江沼地域でも寺院が建立されるようになり、現在までに、宮地、弓波、津波倉、保賀、( ) の5カ所から寺院跡の遺構や出土物が発見されている。  
①小塩辻 ②箱宮 ③高尾 ④伊切
- 14 律令体制下における江沼郡域を代表する豪族は江沼氏であったが、平安時代後期、新たに台頭してきたのは、土着した国司の末裔である( ) であった。  
①藤原氏 ②大江氏 ③疋田氏 ④長野氏
- 15 建武3年、反足利尊氏派の新田義貞は畑時能や狩野一党を味方にして、「大聖寺ノ城」に盾籠たてこもる尊氏方の( ) を攻め落とした。  
①津葉清文 ②斯波高経 ③富樫高家 ④吉見頼隆
- 16 15世紀以降、京都の公家の中には、荘園の權益を守るために下国し直接経営に当たる者もでた。額田荘・八田荘では( ) 父子が3代にわたり荘園を直接支配した。  
①園基富 ②中院通世 ③高辻継長 ④徳大寺実定
- 17 鎌倉仏教のうち、最初に江沼の地に進出したのは時宗であった。『時衆過去帳』によれば、江沼郡では( ) の西光寺を中心に、海岸寄り一帯に道場が置かれた。  
①塩屋 ②潮津 ③橋立 ④小塩
- 18 15世紀中頃、本願寺7世存如は蓮如を伴って加賀に入り、高田派に対抗し布教活動を開始した。存如が( ) に下した『親鸞聖人絵伝』はそれを示す歴史資料である。  
①月津興宗寺 ②河崎専称寺 ③打越勝光寺 ④新郷専光寺

- 19 享禄4年、山田光教寺の顕誓は、有力国人であった( )・福田ノ竹太夫たけだゆう・柴山ひとつはり・一針や越前朝倉氏の援軍を得て超勝寺一党と戦ったが敗れ、越前に亡命した。  
①黒瀬覚道 ②振橋帯刀 ③藤丸新介 ④瀧山津大助
- 20 江沼郡出身の天台宗の僧延昌は幼い頃に出家し、比叡山で仏教を学び、のち天台座主にまで上り詰めた。その事績をもとに謡曲( )や「ゆみつぎ」が創作された。  
①高野物狂 ②隅田川 ③敷地物狂 ④三井寺
- 21 江沼郡赤尾を拠点とする一向一揆の大將藤丸新介は、天文24年朝倉宗滴が江沼郡に侵入した時、南郷城で迎え撃ったが敗退。その後、( )の戦いで自刃したという。  
①金沢御堂 ②松任城 ③砺波城 ④魚津城
- 22 大聖寺藩士後藤才次郎は、伝承では、万治2年藩命で製陶法を習いに肥前有田に赴き、( )で出会った明の陶工数名を伴って帰藩し古九谷窯を開いたとされる。  
①伊万里 ②平戸 ③長崎 ④佐賀
- 23 大聖寺藩士小塚藤十郎は、文政8年に松奉行となり、藩領内の海岸線にクロマツを植え、加賀海岸の松林の基礎を築いた。また、領内の地誌( )の編纂にも力を注いだ。  
①「加賀江沼郡雑記」 ②「藩国見聞録」 ③「芟憩紀聞」 ④「加賀江沼志稿」
- 24 山口玄蕃宗永は慶長3年に越前北庄城主となった小早川秀秋の家老として赴任し大聖寺城主となった。宗永は( )の出身で、理財の道に優れた人物であったという。  
①筑前国 ②山城国 ③若狭国 ④筑後国
- 25 金沢城主前田利長は、慶長5年から40年近く、大聖寺城代を置き江沼郡を支配した。その初代城代( )は、利長の命により金沢城で斬殺された。  
①太田長知 ②小塚権太夫 ③津田重久 ④横山長知
- 26 万治3年4月、大聖寺藩祖前田利治が死去したことで、中沢久兵衛、小沢三郎兵衛、小栗権三郎の3人が殉死した。このうち中沢は5月3日( )で自害した。  
①宗英寺 ②久法寺 ③全昌寺 ④寛慶寺
- 27 大聖寺新田藩祖前田利昌は、宝永6年2月に上野寛永寺で行われた5代将軍徳川綱吉の法会において、御馳走役を務めた( )の織田秀親(監物)を殺害した。  
①柳本藩主 ②蒲生藩主 ③郡山藩主 ④柳生藩主
- 28 大聖寺藩2代前田利明は、延宝4年、中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を( )二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させた。

- ①能美郡 ②石川郡 ③河北郡 ④羽咋郡

- 29 正徳2年8月、強風被害に伴い大聖寺藩領内で正徳一揆が起こった。このとき、農民たちは作柄の検分を行っていた役人らを（ ）で襲撃し、年貢の軽減を認めさせた。  
①分校村 ②山代村 ③那谷村 ④山中村
- 30 江戸時代、大聖寺藩の村々には、村肝煎・組合頭・（ ）からなる村方三役（地方三役）が置かれていた。  
①算者 ②十人頭 ③五人頭 ④百姓代
- 31 大聖寺藩の参勤交代は、藩主が江戸に行く参勤（参観）と国元に帰る交代（就封）がある。これらを合わせると計（ ）行われたことになる。  
①179回 ②181回 ③183回 ④185回
- 32 大聖寺藩では城下町の西端に関所を、橘・吉崎・熊坂・（ ）などに口留番所を置き、越前との往来を常に監視した。  
①山中 ②風谷 ③九谷 ④真砂
- 33 柴山瀉にも大聖寺川と同様に川舟が往来し、その周辺には河道が置かれていた。遊行上人一行は、（ ）領にあった上人河道を利用して実盛塚を回向した。  
①柴山村 ②新保村 ③伊切村 ④篠原村
- 34 大聖寺藩主 12代前田利義まへだとしのりは軍備の必要性を痛感し、嘉永5年に藩士の西出源蔵を金沢に遣わし、吹屋の（ ）に大砲の鑄造を命じた。  
①村山四郎兵衛 ②吉崎屋嘉兵衛 ③西出孫左衛門 ④久保彦兵衛
- 35 大聖寺藩では、佐々木泉景をはじめ小原文英や山口梅園など多くの絵師が活躍したが、このうち、小原文英は初め狩野派を学んだが、のち谷文晁から（ ）を修得した。  
①南画 ②写生画 ③文人画 ④洋画
- 36 明治3年、大聖寺庄兵衛谷に浦上キリシタン50人が収容されたが、明治5年に金沢の（ ）に送られた。  
①金沢東別院 ②卯辰山 ③尾山神社 ④大乘寺
- 37 明治2年、大聖寺藩士石川嶂は、琵琶湖に川蒸気船一番丸を就航させた。一番丸は、大津と（ ）を往復する日本初の川蒸気船となった。  
①彦根 ②長浜 ③海津 ④今津

- 38 明治8年、富士写ヶ岳山麓で良質の黒鉛が発見された。元大聖寺藩士で当時（ ）の役人をしていた飛鳥井清はこの黒鉛を利用し鉛筆製造をしようと考えた。  
①石川県庁 ②大蔵省 ③文部省 ④工部省
- 39 大聖寺の貿易商大沢十次郎は、明治9年、九谷焼などを出品するためにアメリカに渡り、2年後、ニューヨークや（ ）に支店を設置し販路を拡大させた。  
①ロンドン ②香港 ③シカゴ ④ボストン
- 40 「大聖寺博覧会」は、明治12年に（ ）と遷明中学校の2カ所を会場にして、15日間にわたって盛大に開催された。  
①江沼神社 ②錦城小学校 ③願成寺 ④江沼物産館
- 41 昭和2年、当地で創業された八十四銀行は、世界恐慌や織物業の不振などで休業に追い込まれ、翌3年、いくつかの休業銀行を整理統合し（ ）銀行として再編された。  
①明治 ②大正 ③昭和 ④再生
- 42 県立大聖寺中学校が設立されたのは大正12年のことであったが、当地初の女学校となる郡立実家高等女学校が設立されたのは、（ ）のことであった。  
①明治44年 ②大正13年 ③昭和6年 ④昭和11年
- 43 加賀市（ ）町では、地租改正後の明治19年と農地改革後の昭和26年の2回、田地の水害に見舞われたことで、地割（田地割）が行われた。  
①中島 ②柴山 ③潮津 ④合河
- 44 大聖寺川の河口に位置する鹿島の森には、平安時代に天台宗の霊場が、また江戸時代には万宝院と称する（ ）の道場があった。  
①法華宗 ②浄土宗 ③臨済宗 ④曹洞宗
- 45 大聖寺神明町の全昌寺には、京都の仏工（ ）が幕末から明治にかけて製作した五百羅漢像が一体も欠けることなく現存している。  
①左甚五郎 ②山本茂祐 ③嶋雪斎 ④丸山新太郎
- 46 後藤才次郎ゆかりの寺として知られる大聖寺の（ ）には、九谷焼初期の伝世品と推測される「古九谷色絵孔雀図平鉢」が所蔵されている。  
①本善寺 ②願成寺 ③全昌寺 ④実性院
- 47 山代温泉薬王院の県指定文化財「木造十一面観音像」は、もと白山五院の一つである大聖寺（ ）の本尊として祀られていたものである。

①全昌寺 ②慈光院 ③実性院 ④極楽寺

48 大聖寺の錦城山には、南北朝時代から元和元年までの間、数度に亘って城が設置されていたが、この大聖寺城を大改修したのは（ ）の与力溝口秀勝である。

①織田信長 ②豊臣秀吉 ③柴田勝家 ④丹羽長秀

49 小塩辻村の十村鹿野小四郎は農業知識に詳しく、子孫に伝えるために（ ）全5巻を著した。

①江沼志稿 ②農事遺書 ③耕稼春秋 ④農業全書

50 （ ）は、たびたび大聖寺藩に多額の献金を行ない、また、銀行や発電所の創設や教育活動に支援を行なうなど、加賀北前船主のリーダー的存在であった。

①酒谷長兵衛 ②西野小左衛門 ③廣海二三郎 ④久保彦兵衛

51 大津事件で、ロシア帝国の皇太子ニコライを暴漢から救った2人の車夫のうち、北ヶ市市太郎は、現在の加賀市（ ）町の出身である。

①西島 ②黒瀬 ③加茂 ④保賀

52 元大聖寺藩士の梅田五月は、九谷焼や製茶・製塩などの産業振興を図り、その後、県会議員や大聖寺町長を務め、明治27年には（ ）となった。

①商工会議所会頭 ②江沼郡長 ③石川県知事 ④衆議院議員

53 河野安通志は早稲田大学を卒業後、大正11年「日本運動協会」を創設したが、これが日本初のプロ（ ）チームといわれている。

①サッカー ②野球 ③バスケット ④ラグビー

54 東京生まれの碓伊之助はパリに渡りアンリ・マチスに師事するなど、画家として活躍していたが、昭和37年（ ）に魅せられ、吸坂町に移住した。

①山中塗り ②古九谷 ③仏像彫刻 ④水彩画

55 曾宇村出身の（ ）は日本初のアルミ印刷機やオフセット印刷機、グラビヤ輪転機など開発し、わが国の印刷技術発展に貢献した。

①山田宗美 ②篠原藤平 ③浜田初次郎 ④山崎定吉

56 大聖寺出身の洋画家（ ）は、戦後、捕虜となってシベリアに連行されたが、途中、脱走し、千キロを踏破して無事日本に帰国した。

①広田百豊 ②森本仁平 ③国本克己 ④宮本三郎

- 57 加賀市内でもニッチ産業とよばれる企業がある。高い技術をもって（ ）を製造している八日市町の株式会社スミタなどはその代表である。  
①ステッキ ②自転車ブレーキ ③ヘルメット ④プリンターインク
- 58 昭和 61 年における山代、山中、片山津の 3 温泉の宿泊者数の合計は（ ）万人を超えていたが、平成 25 年度には、約 160 万人まで落ち込んだ。  
① 280 ② 370 ③ 420 ④ 480
- 59 加賀市内の宇谷野工場団地は、昭和 56 年（1981）に市内宇谷町の山林およそ（ ）万㎡を造成し整備したものである。  
① 12 ② 27 ③ 46 ④ 52
- 60 山中漆器は、江戸末期における蒔絵師会津屋由蔵や糸目挽木の名工（ ）、近代に入ってからの加飾挽きの名工筑城良太郎らの努力により大きく発展したとされる。  
①小西次兵衛 ②越前屋治平 ③近江屋庄助 ④蓑屋平兵衛